

以森伝心

No.
50

前理事長 柏原康夫筆

京都の森を守り育てる運動に参加しませんか

巻頭特集

建築家も
若い世代も巻き込んだ、
多様性のある森に

京都建築専門学校校長
佐野春仁



■ 京都の森の仲間たち
樹々の会

■ 企業等参加の森林づくり

■ 森の出前授業
府民公開講座

京都市右京区京北に広がる「合併記念の森」の一角。小さな池を臨む高台に株立ちした雑木をベースにツリーハウスが設置されている。制作したのは京都建築専門学校の学生さんたち。建築を学ぶ彼らが山に入り作ったツリーハウスにはどんな想いが込められているのか、また、そこから見えて来たものは何か。京都建築専門学校校長の佐野春仁先生に、葎屋町町家校舎にてお話を伺った。

1954年生まれ、京都大学建築学科卒業、同大学院修了。その後ドイツのシュトゥットガルト大学へ留学。帰国後に一級建築士事務所 Boden-Bau 建築研究所を開設する。京都大学非常勤講師を経て、現在は京都建築専門学校校長を務める。設計製図、伝統構法、建築概論、建築研究などの授業や演習のほか、木工基礎、椅子ゼミ、木匠塾や町家改修の指導を行っている。



建築家も 若い世代も巻き込んだ、 多様性のある森に

京都建築専門学校校長 佐野春仁

京都の木造建築への思い

「僕たちが建築を学んでいた頃は、鉄筋コンクリートが主流の時代でした。でも僕自身はどちらかというと木造が好きだったので、コンクリートばかりに走ることに違和感がありました。そんな時、トレドで伝統の木造の民家を見て大感動。現代でも伝統的な木造の建築をやっているのだと強く感じました」

お話を伺っている部屋の外では、京都建築専門学校の学生さんたちが、古民家から運び込んだと思われる重厚な梁や柱を加工しているようで、ノミを叩く槌の音に混じって、時折り楽しそうな掛け合いや笑い声も聞こえてくる。

「木造の建築を学びながら教えたいとの思いから、この学校を選びました。大学で教えていた時期もありましたが、彼らは卒業後、ほとんどが東京や外国へ行ってしまう、京都の町家とか社寺とかの面倒を

見てくれない。その点、ここの卒業生は多くが京都に残るので、それをやってくれる。この学校は、戦後まもなく、京都の大工さんたちの組合が師弟教育のために設けた学校に始まります。当時、宮大工の三上吉兵衛や数寄屋の安井奎太郎といった日本有数の名棟梁たちが声をかけて組合が創設されたというところに魅力を感じます。

この学校に来て、やりたかったことが二つあって、その一つは京都の社寺・数寄屋や町家を維持し守れる技術者を育てること。そのために伝統建築研究科を新設する。それから、市民講座「木造の魅力」。当校には素晴らしい職人がたくさん関わっているので、彼らの生きた話を皆で聞き、学ぼうという趣旨で、無料で広く一般市民を招いて開催しています。そしてもうひとつが町家校舎。学生たちや市民の学びの拠点であり、実際に町家改修のお手伝いをさせてもらっています」

山林との関わり

京都建築専門学校校長や町家改修の指導に携わる一方で、佐野先生は山林に関わる活動も精力的にこなす。山林との関わりについて尋ねてみた。

「静岡の実家が山を持っていますね、富士山の西側に位置していて、日が差してくるのが朝 10 時から夕方 3 時には沈むような谷間です。父親は各地を転勤していましたが、学校の休みには郷里で山の管理を手伝っていました。小さい頃から苗木を植えたり、枝打ちや下刈りもやっていたので、山の世話のたいへんさは身に染みてわかります。その木もすっかり大きくなって伐期に至ってます。その先はどうなるのだろうか。道があれば伐り出すことはできるだろうが、1 時間以上歩かねばならない奥地の木は、どうやって出するか。今はコスト的にできなくなってしまいました。父親の時代、昭和 40 年代までは一年に 1 町分、1ha を伐れば、それなりのお金になり、子どもを大学にやったり、家を建てたり、木を植えて世話出来ました。伐期 50 年とすれば 50ha の山があれば、回って行くという山林経営の基本がありました。今はもうすっかり昔話です。日本国中あちこち間伐もされずに放置されたままの山林だらけになっています。

林業の問題は、いまや建築のみならず暮らしをとりまく環境の問題、地球環境の問題につながっています。建築という観点から考えてみたいという思いは大学に入学した頃から私の根っこにありました。そんな思いが実現するきっかけになったのは、1994 年の平安遷都 1200 年祭でした。梅小路公園に、かつて都を造営する際に木を出した京北の木で何かつくろうと、学生たちと山に入って 100 本ほどの北山杉を伐り出し、枝葉を残したまま皮を剥いて建てました。京北の林業家や組合の青年部大工たちとの交流がそこから始まりました。

用途のないアートの活動はいろいろな感覚を目覚めさせてくれるものです。山の人たちも面白そうだと、ほかにも丸太で山荘を建てたり、板倉の茶室を建てたり、いろいろお世話いただきました。そんな中、建築を学ぶ大学生と山をつなぐ「木匠塾」が京都には無いということで、引き受けることになりました。京大や福井



遷都 1200 年記念アニヴァーサリーフェア
@梅小路公園
北山杉の造形 1994 写真/上家佑

大学なども参加して「美山木匠塾」がスタート。美山自然文化村や林業家さんの山小屋を拠点に活動しました。2003 年からは京北の空き家古民家を拠点にして地域の人たちや林業家さんたちとの交流が始まり、京北森林組合の工場（2008）や倉庫の建設、京都市の京北合併記念の森の管理棟（2009）、同作業棟（2010）、そして京北の天然乾燥材による「平成の京町家伝統型モデル棟」（2012）を学生たちと建てさせていただきました」

「今の建築家の多くは、木がどこから来ているのかわからない。学生はもっと知らないですね。だから、木が生えている山を見ようと。そこで林業家さんたちがやっていることを知り、自分たちで木を伐ってかつぎ出し、皮を剥いて柱や梁にして建築をやってみてわかることがある。一から身体で知った上で建築と素材のあり方を学ぼうというものです。今日、必要なものは何でもネットで注文したら翌日に届くみたいな勘違いがあるけど、建築って本来、そうじゃない。山の木を伐って皮を剥いて、その丸太で何かつくる。面白いし、感動もある。その面白さ、感動は結果出来上がる建築に何かを加えてくれます。京北合併記念の森では、子どもたちの遊び場づくりをしようと、合併記念の森の一角でツリーハウスプロジェクトを始めました。市民参加で子どもたちを連れてきてもらって、皆でツリーハウスを作るんです。子どもたちにも簡単な作業をちょっと手伝ってもらって、それ以外は遊べと。子どもたちは、だだっ広い野に放たれると、みんな歓声を上げながらあちこち走り回り、遊びに夢中になります。森や山のファンになってもらう。ツリーハウスはさっさと作ったら 1 年で終わってしまいますから、ときどき林業や木の話を織り交ぜるようなこともしながら、5 年ぐらいかけて作りました」

佐野先生たちの活動は注目を集めるようになり、次第に全国各地から見学に訪れる団体も増えていく。そんな中、乙訓の放置竹林を手入れする団体からも声がかかる。

「タケノコ農家さんがどんどん辞めていくので、竹林がすごく荒れてしまった。見ているだけでも心が痛む。なんとかしてほしいということで、学生たちと一緒に竹林整備を始めました。しかし、ただ竹を伐るだけではつまらないから何か活用できないかと、いろん



京北合併記念の森
ツリーハウスプロジェクト
2015 年より

な利用法も考えました。例えば、竹から繊維が取れるし、日本には竹を使った工芸品も多い。しかし今は、ほとんどの製品が中国で、しかも日本で作る10分の1くらいの費用でできてしまう。そこで僕が提案したのは、やはりここでも子どもたちの遊び場。周りが住宅地で、しかも小さい子どもがたくさんいます。ここに基地を作ろう、ここへ小屋を作ろう、ここには滑り台、こっちにブランコといった感じで。子どもたちは大喜びでした。竹が素晴らしい点は、子どもたちでも切ったらコップが作れる。割れば箸ができる。こうした自分たちで「つくる」経験を通じて作る喜びを覚えてもらい、整備さ



物集女竹林での活動から2018年より

れた竹の風景を愛でて、竹の里としての地域のアイデンティティを、やがては地域を愛してもらえたらいいなと思っています」

京都の森を守るために

建築家としてだけではなく、林業家や地域おこし活動など多面的な視野をもつ佐野先生から見て、京都の森を守るために今、どんなことが必要なのか尋ねてみた。

「まずは森を生活の一部にすることと、木をいろいろな工芸に活用し林業自体を自立できるものにすることでしょうね。山をスギやヒノキなど単一的な木の畑にしておくのではなく、いろんな樹種が育っていて有効な木をその都度、切り出してきて活用するような自然な山や森にするのが良いと思います。そのためには、元々あった自然な生態系をもう少し勉強しなければいけません。それが最も実践できているのがドイツの恒常林業。池田憲昭さんが『シュヴァルツヴァルトの林業形態』という書籍で紹介されていて、日本でもドイツ並みの林業に移行可能だと書いておられる。これまでずっとスギ・ヒノキを製品に加工して売るという発想ばかりでしたが、もう少し幅を広げるために山の生態系の重要性を見直すことだと思います。例えば最近若い人たちが始めた京北の「工藝の森」というプロジェクトでは、京北の杉でつくったサーフボードに漆を塗るという制作を軸に、子どもたちと一緒に漆の木を植えて育てるという取り組みが進んでいます。山に入ると、クリや桐も育っている。いつまでもスギ・ヒノキだけではなく、もっといろいろな木を育てて多様性のある山にしていこうというのが基本。そうするといろん

なアイデアや商品が生まれてくるし、見ていても楽しいですね。だからそこへ市民たちも入ってくる。いろんな運動がしやすくなるという好循環が生まれると思うんですね。また、ソーシャルデザイナーのフェイラン・ツェンさんが、若い芸術家たちを集めて新しい動きを始めています。金儲けの畑ではなくて、生命豊かな森の魅力に目を開こうと。

そうした動きを広げる、あるいは林業の活動を知ってもらうためには何かツールが必要だと考え、フェイランさんたちと一緒に『家守（やもり）の木』という絵本を作りました。京北の片波の大きな伏条台杉を「おおぬし様」と呼んで、それをベースにした物語を書き、もりわきのぶこさんが絵を描いてくれました。子どもたちに読み聞かせることで、その親たちにも山や林業のことを勉強してもらえれば嬉しいですね。それから、やっぱり自然と一緒にいることが人間の基本だと思います。都会のコンクリートジャングルのなかで育った子どもは、ある一点に秀でていても、どこかで弱い部分が出てくると思っています。若い世代の意識の高い人たちは自然のなかで子育てをしようと田舎に移住してくる。彼らには力があるから、地域にうまく溶け込んで地域のために活動したり、小さな学校をなんとか維持する取り組みを提案したりと頑張っている。そろそろ、私たちの暮らしの在り方を、自然との関係のなかで考え直すべきでしょう。建築に携わる人たちにも同じことが言えて、失いかけている伝統の知恵を取り戻す必要があると思います。かつての大工棟梁は山の立ち木をそのままそっくり「山買い」をするんです。良い木もあれば悪い木もある。それぞれの特徴や癖を活かして使うのが棟梁の腕でした。でもそれが今は全部ネットで製品が手に入る。昔の棟梁は、山の人たちの暮らしも考えに入れて家をつくっていた。そういう知恵や技術が本当は必要だと思うんです。それをみんな、効率のために捨ててしまった。それらをちょっと取り戻す、勉強し直すべきだと思いますね」

「木の畑」である林から建築やプロダクトなど木の個性を生かす森まで、幅広い視野で展開される佐野先生のお話を伺いながら、森を守るためにはよく耳にする川上から川下までの木の流れという経済的な視点だけではなく、逆に川下から川上へという生命の視点が大切であると感じた。



「家守の木」2017
制作：「山とまちを結ぶ絵本の会」
文 フェイラン・ツェン
絵 もりわきのぶこ

京都の 森の仲間たち

じゅ じゅ
樹々の会
(京都市右京区)



京都市の北西部、桂川の源流域に位置する京北地域。古くから良質な木材の産地として名を馳せ、京の都へ木材を供給してきました。

今回は、この京北をフィールドに、女性の視点での森林資源の活用や地域の活性化のための活動に取り組まれている「樹々の会」の皆さんにお話を伺いました。

—林業教室から女性の林業研究グループへ



私たちは、平成 11 年に府が主催した「女性の林業教室」を契機にスタートしました。当初は京北町（平成 17 年に京都市に合併）と美山町のメンバーからなり、その後林業研究グループとして独立しました。これまで 20 年以上にわたって活動が続けており、現在では京北

町を中心に 30 名を超えるメンバーが所属しています。

平成 17 年の京北町と京都市の合併以降は、「京都市合併記念の森」での森づくり活動にも参画しています。そのほかにも、京北の森林に自生する「クロモジ」を活用したお茶や、クロモジパウダーなどの商品開発など、地元京北の地域資源を活用した商品の企画販売に力を入れています。

—京北の森から広がるネットワーク

クロモジはさわやかな香りが特徴的で、昔から和菓子の楊枝などに使われてきました。私たちは春に採取したクロモジの



葉を使った「しんしん茶」や、クロモジパウダーを使ったおかしや飴などを企画販売しています。小学校の旧校舎で定期的に集まって商品開発に取り組んでおり、食品衛生法に基づく営業許可も受け、会員内で衛生管理の規格 HACCP（ハサップ）の勉強会なども行っています。

地元京北の資源を活かした取り組みとしては、他にもマイタケを自分たちで栽培、販売しています。食品だけでなく、松栄堂さんと一緒にクロモジを使ったお香「しんしん香」を開発し、販売を始めました。

さらに近年では、「エコ〜るど京大」の学生の皆さんや浅利先生とのご縁があり、若手メンバーの入会もありました。

—地域に根差した活動からSDGsへ

これまで行政や研究者など多くの分野の方々とのご縁をいただき、いろいろな面で私たちの活動を支援してもらってきました。特にこちらから積極的に広報活動をしたわけでもなく、自分たちが大切にしているものを追求するうちに自然とご縁をいただき、それが広がってきたように感じます。特に最近では、企業の方々なども参加される地域でのSDGsの勉強会などにもお声掛けいただき、参加しています。私たちの姿勢は設立当初から変わりませんが、時代が変わり、改めてSDGsの実践として注目いただくようになってきたのかなと思っています。

これからも地域のため、会員同士や地域、また応援してくださる皆さんとの繋がりを大事にしながら、活動を続けていきたいと思っています。



団体プロフィール

じゅ じゅ
樹々の会

設立：1999年

活動地：京都市右京区京北

活動概要：地域の森林資源や農産物を使った製品開発、森林整備活動など

企業等参加の森林づくり活動報告

府内各地で地域と連携して森林保全の活動に取り組んでおられる企業・団体の活動について、今年度行われた活動からピックアップしてご紹介します。

(協会に送付いただいた活動報告より抜粋して掲載しています)

8月20日(土)	エスベック株式会社	福知山市
9月10日(土)	エスベック株式会社	福知山市
9月10日(土)	三共精機株式会社、佛教大学	南丹市
9月17日(土)	株式会社SCREENホールディングス	亀岡市
10月 1日(土)	グンゼ株式会社	綾部市
10月20日(木)	株式会社マツシマホールディングス	長岡京市
10月22日(土)	株式会社ドコモCS関西	宇治市
10月22日(土)	関西電力労働組合 京都地区本部	京丹波町
10月30日(日)	公益財団法人日新電機グループ 社会貢献基金	南丹市
11月 5日(土)	京セラ株式会社	京田辺市

11月12日(土)	グンゼ株式会社	綾部市
11月12日(土)	株式会社村田製作所	亀岡市
11月17日(木)	株式会社マツシマホールディングス	長岡京市
11月17日(木)	エルセラーン化粧品株式会社	長岡京市
11月19日(土)	KDDI株式会社 関西総支社	大山崎町
11月19日(土)	三共精機株式会社、佛教大学	美山町
11月20日(日)	高砂熱学工業株式会社大阪支店	園部町
11月26日(土)	株式会社虎屋 京都工場	八木町
11月26日(土)	オムロン株式会社	綾部市
12月10日(土)	三洋化成工業株式会社 一般財団法人三洋化成社会貢献財団	和束町
2月25日(土)	株式会社虎屋 京都工場	八木町



エスベック株式会社



佛教大学



グンゼ株式会社



株式会社マツシマ
ホールディングス



関西電力労働組合京都地区本部



公益財団法人日新電機グループ社会貢献基金



京セラ株式会社



グンゼ株式会社



エルセラーン化粧品株式会社



KDDI株式会社 関西総支社



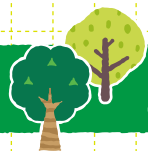
高砂熱学工業株式会社大阪支店



株式会社虎屋 京都工場



三洋化成工業株式会社
一般財団法人三洋化成社会貢献財団



豊かな森を次世代へ

森の出前授業

「緑の募金」の取り組みの一環として、府内の幼稚園・保育園・小中学校を対象とする森林環境教育に関する出前授業など実施しています。
2022年度後半の事業の様子をお伝えします。

北野幼稚園 同園観察林

令和4年
6月22日

京都市北区

森林観察、葉っぱ
のこすりだし



篠村幼稚園 長尾山

令和4年
10月20日

岡崎市

森林散策、
薪割り体験



御室幼稚園 園庭

令和5年
1月19日

京都市右京区

しいたけの菌打ち
体験



安朱小学校 安祥寺山



令和4年
9月2日

京都市山科区

森林観察、
種とばし

ノートルダム学院小学校 同校山の家



令和4年
11月19日

滋賀県高島市

自然観察、
種とばし

みぎわ保育園 長尾山



令和5年
1月19日

岡崎市

森林散策、とんど
焼きを見学

京都建築専門学校 京都市合併記念の森

令和4年
9月17日

京都市右京区

ウッドデッキ建築



朱い実保育園 京都御苑

令和4年
11月23日

京都市上京区

自然観察



嵯峨幼稚園 園庭

令和5年
1月20日

京都市右京区

しいたけの菌打ち
体験



ひかり幼稚園 長尾山



令和4年
10月13日

岡崎市

森林散策、丸太切
りの飾りつけ

葉室幼稚園 園庭



令和5年
1月17日

京都市西京区

しいたけの菌打ち
体験

嵯峨こばと保育園 園庭



令和5年
1月24日

京都市右京区

しいたけの菌打ち
体験

府民公開講座

片波川の伏条台 杉群と京の歴史

令和4年11月11日(金曜日)、

3年ぶりに府民公開講座「片波川の伏条

台杉群と京の歴史」を開催、19名の皆さんにご参加いただきました。



当日は、地元の黒田の食材を使ったふるさと弁当をいただいた後、片波自然観察インストラクターの方のお話を聞きながら、一の峰から二の峰を回りました。尾根広場で合流したあとは、平安杉の前で全員で記念撮影、続いて「宿り杉」や「舟形杉」などの迫力ある木を観察しながら回りました。



森に棲む神様の気配を感じる一日——講座に参加して

松井 茂樹

ある時、森と触れ合うサークル活動の縁で府民公開講座が開催されることを知り、秋晴れの下、バスに揺られて一時間、紅葉真っ盛りの高雄を抜けて京北町に着くと心はずでに自然の虜に。中継地での地元ガイドの方の丁寧な説明がスッと体に入ってくる。山国地域で伐採された原木が筏に組まれて凍てつく冬場に桂川を下るさまを目に浮かべ、昔の人たちの生業に思いを馳せた。さらにバスに乗ってよいよ目的地に到着、まずは林道の造設で偶然地上に現れたという壮大な層状チャートを目の当りにする。ここが二億年前には海の底だったとは！何層にも積み重なった芸術的な曲線が描く造形美に圧倒される。腹時計が鳴った。織りなす山並みを眺めながら地元の食材がたっぷりのわっぱ弁当に舌鼓を打つ。腹ごなしをしていよいよ目指すべき片波川源流保護地域に足を踏み入れる。「ちょっとお邪魔します」。歩を進めているとどこからか森に棲む神様が呼びかけてきた。「おお、おお、よう来たなあ。空耳だったのかしら。スタジオジブリの世界に迷い込んだようなゆるりとした気持ちになった。



事務局からのお知らせ - 活動報告 -

令和4年9月3日・4日

京都市左京区

令和4年度緑化運動ポスターコンクール展示会開催

府内の小・中・高・支援学校等から921点の応募があった同コンクールの上位入賞作品の展示会を、府立植物園で開催。作品の一部は全国コンクールへ応募され、南丹市立殿田小学校3年の大沢紗沙羅さんが林野庁長官賞に、京都先端科学大学附属高等学校1年の上嶋いろはさんの作品が国土緑化推進機構理事長賞に入選しました。



南丹市立殿田小学校3年
大沢 紗沙羅さん



京都府立北嵯峨高等学校3年
佐々木 彩さん

【最優秀賞の2作品】

令和4年10月13日

エルセラーン化粧品との

「森林の利用保全に関する協定」の調印式

エルセラーン化粧品株式会社（本社大阪市）が、環境保全分野の社会貢献活動の一環として、京都モデルフォレスト運動に参画し、長岡京市の森林で活動を行うこととなり、協定の調印式を行いました。



令和4年11月23日

京都府南丹市

キョーラク百年の森基金事業

「こども森づくり・体験学習会」



京都府南丹市の「府民の森 ひよし」で、森林インストラクターから秋の森の樹木などについてのお話を聞き、自然観察。午後からは森の恵みを使った火起こし体験講座を。広葉樹や針葉樹の重さや火の違いなど、実際に薪割りから体験しながら先生のお話を聞きました。湿気が多い中ファイヤースターターを使っての火起こしは苦戦していましたが、無事火が付いたときには歓声が上がっていました。

令和4年12月3日、11日

京都市西京区

株式会社中央倉庫協賛

「冬の森の探検隊！ 松尾山と西芳寺川古墳」

京都市西京区の松尾山国有林を会場に、森林インストラクターと班ごとに森の探検へ、出発！ 古墳の中ではみんな大興奮！ ヘッドライトを消して、真っ暗闇も体験しました。



緑の募金ご協力をお願い

緑の募金は、地域や学校の緑化活動や、未来を担う子どもたちの森林環境教育などに使われています。皆様のご協力をお願いいたします。



●郵便振替や銀行振込で

どこでも、誰でも募金ができます。

1. 郵便振替

00920-7-239523

京都モデルフォレスト協会緑の募金

窓口の利用で振込手数料等が免除されます

2. 銀行振込 京都銀行府庁出張所

普通 3154305

公益社団法人 京都モデルフォレスト協会

理事長 安藤 孝夫



令和4年募金実績

14,328,495 円

ご協力ありがとうございました。

●商品購入や募金箱で

「緑の募金付き商品」を購入したり、各所に設置された「緑の募金箱」に直接募金することで、ご協力いただけます。「緑の募金付き商品」開発・販売や募金箱の設置等、様々な形でご協力いただける店舗様、事務所様も募集しています。

会員PR欄

OMRON

SUNTORY

発行: 公益社団法人京都モデルフォレスト協会
〒604-8424 京都市中京区西ノ京樋ノ口町123 京都府林業会館3階

TEL&FAX 075-823-0170 E-mail kyomori@kyoto-modelforest.jp

URL <https://www.kyoto-modelforest.jp>

[facebook](https://www.facebook.com/KyotoModelForest) <https://www.facebook.com/KyotoModelForest>

入会案内資料をご希望の方は
ご連絡ください。